

Dr.ひろみの

ハッピー子育て

か る た

ひろみ



みなさん、こんにちは！4年半前に高校生のベトナム人留学生のホストファミリーをしました。彼が「お母さん、関西の大学に留学することになりました」と連絡くれました。関空で他人のスーツケースを持って出てきてしまうというドジっぷりで、つい世話を焼きたくなり私と夫は軽トラを借りて、家電や生活用品を差し入れしに行きました。また日本で学びたい、また香川に会いに来たいという気持ちが嬉しく、もう一人の息子との再会に感慨無量でした！



☆読み手☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

32

いま、はじめたら
きつとうまくいく
はげましは
人の背中をそっと押す



31

そのままだと
大変なことになる
おどかさされて
動けなくなる



今月のかるた解説

私たちは子どもを励ましやる気にさせようと、「〇〇しないと高校に行けないよ」「〇〇できないと社会でやっていけないよ」「このままだとヤバイよ、一生後悔するよ」など危機感や不安感をあおる言葉をかけることがあります。これらの言葉は、励ましどころか呪いの言葉になって、「自分は〇〇だから高校行けないんだ、社会でやっていけないんだ、ダメな人間なんだ」と思い込ませ、自己肯定感を下げてやる気をなくさせます。そこで奮起しない子どもにイラついては悪循環です。

人のやる気スイッチを押すには「内発的動機付け」が必要です。罰や脅しではちょっとは動くかもしれませんが、まず続きません。自分からやりたい、やってみよう、やるんだ！という意欲は自分の内側から、主体的に生まれないと長続きしません。「〇〇しなさい」という指示もやろうとする気持ちに水を差します。「今やろうとしてたのに、お母さんのせいでやる気が失せた」と言われることはよくありますね。「やろうかな」という気持ちが見えたら、「やっと？遅い」などの嫌味は言わず、「いいね。きつとうまくいくよ」と軽く背中を押すとエンジンがかかりやすいかと思います。

